

1学年国語科(26年度)

1 使用教材

教科書及び副読本など
教科書 国語1(光村図書) E 漢字(とうほう) 国語便覧(浜島書店) よくわかる中学国文法(吉野教育図書) プリント(指導者作成)

2 評価の観点および方法

評 価 の 観 点		評 価 の 方 法
①国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業に積極的に参加し、授業中よく聞き、意見を伝えようとする。 ・授業に関したことに興味・関心を持ち、自主的に学習を深めることができる。 ・課題・提出物を確実にこなすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の観察(態度・発表など) ・ノート、プリントなどの提出状況
②話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒や教師の発言を的確に聞き取るとともに、自分の考えと比較したり評価したりできる。 ・自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。 ・詩や文章を工夫して朗読できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表や意見の内容・授業態度 ・定期テスト ・本文等の音読 ・プリント
③書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えがはっきり読み手に伝わるような文章を書ける。 ・テーマや条件に沿って書き表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作文・感想文 ・定期テスト ・ノート、プリントの記述 ・プリント
④読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の細部まで注意して読み、様々な疑問を持ち、想像することができる。(主に文学的文章) ・抽象的な表現を具体的なものに変えたり、その逆を行ったりして、筆者の主張をリアルに把握することができる。(主に説明的文章) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートへの書き込み ・定期テスト
⑤言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・その時期に必要な漢字の読み書きができる。 ・文法の知識を理解し、表現に生かせる。 ・授業で扱った作品中の難語句を解決しながら、自分の語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テスト ・文法・語句の小テスト ・定期テスト

3 学習計画

各単元		主な学習内容
1学期	詩「野原はうたう」	朗読を行う際の注意点や工夫点を理解する。内容や特徴がよくわかるように音読する。詩の特徴、作者のねらいや工夫を学ぶ。
	小説「空中ブランコ乗りのキキ」	表現をもとに疑問を見つけたり、想像したりして出てきた意見を交換する中で作品の「状況」や「登場人物の心情」に対して「豊かな読み」と「正確な読み」ができるようになる。話し言葉と書き言葉の違いと使い方について知る。
	言葉 話し言葉と書き言葉	指示語や接続語の働きをつかみながら筆者の、文章の構成や展開を理解し、筆者のものの見方考え方を理解する。
	説明文「ちよっと立ち止まって」	漢字の字形を組み立てと部首から理解する。
	言語 漢字の組み立てと部首	それぞれの違いに注目し、さまざまな詩があることと、形式上の分類を知る。
	詩 はじめての詩・詩四編	言葉の単位、特に文節について知り、文節分けができるようになる。
	文法 言葉の単位	原稿用紙を使う上での留意点を知り、実際に正しく書けるようになる。
書く 原稿用紙の使い方	優れた読書感想文とはどういうものかを知り、実際に書くためのスキルを学ぶ。	

	書く 読書感想文の書き方	
2 学 期	<p>話す聞く書く 意見作文 古典の基礎 古典「蓬萊の玉の枝」(「竹取物語」より)</p> <p>今に生きる言葉・故事成語</p> <p>文法 文の成分 説明文「流氷と私たちの暮らし」</p> <p>小説(絵本)「大人になれなかった弟たちに・・・」</p> <p>言語 書写</p>	<p>テーマに沿って討論し、出された意見をもとに意見作文を書く。 古典とはどういうジャンルかを知り、古典を学ぶ上での基礎知識を学ぶ。 作品の背景やあらすじをつかみ、文語文を現代仮名遣いに直したり、口語に直したりできるようにする。また、よく出る簡単な古典の単語を覚える。 現代ならSF 作品ともいえる本来の「竹取物語」そのものの面白さを味わい、他の古典作品への興味を持つ。 漢文の基礎知識を学び、さまざまな故事成語について知り、その由来や意味を調べ、使われ方を理解する。 主語・述語など文の成分の役割を知り、分類ができる。文節同士の関係を細かい表現に着目し、具体例の意味するものや段落構成などから、筆者の伝えたいことを正確に把握したうえで、自分なりの意見を持つ。 あらゆる場面で「状況」と「登場人物の心情」を想像しながら、筆者がこの作品に込めた切実な思いをつかみ、自分なりの感想・意見を持ち、感想文を書く。 毛筆を行うに当たっての基本的な知識と留意点を知り、「楷書」に取り組む。 文字の配列や配置に気をつけて楷書で作品を書く。</p>
3 学 期	<p>小説(随筆)「そこに僕はいた」</p> <p>言語 漢字の音訓・漢字の成り立ち</p> <p>書く 書写(硬筆)「お世話になった先生に手紙を書こう」</p>	<p>作品の状況をつかみつつ、さりげない表現に潜む登場人物の心情の変化に気づき、その奥にある筆者の強い思いを読み取る。登場人物の生き方について考え、自分なりの感想を持つ。 四種の漢字の成り立ちについて知る。漢字の音と意味の部分の構成について理解する。 お世話になった先生方に、感謝を表す中身とともに形式をも整えた手紙文を書く。</p>

4 学習方法についてのアドバイス

学 習 方 法	学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、先生やクラスメートのお話を集中して聞いて理解し、疑問や意見を持ち、それを参考に自分の考えをまとめよう。 ・黒板に書かれたことや自分で考えたことをノートに工夫してまとめよう。 ・授業では積極的に挙手して発言しよう。 ・テストでは間違えたところを大切に、「なぜ間違ったのか」がわかるようにしておこう。わからないときは、先生やクラスメートにすぐに聞いて解決するようにしよう。
	家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で習ったところは、その日のうちにノートや資料を読み返すなどして、必ず家庭で復習しよう。 ・「E 漢字」を十分に使って練習し、小学校レベルから漢字の読み書きを確実なものにしよう。